日本人の外国人に対する潜在的な意識の検証
――潜在連合テスト（IAT）とGo/No-Go連合テスト（GNAT）を用いて――

本　郷　汰　樹

いま，世界中で多様性が叫ばれており，不平等なき多様性のある世界を目指して多くの取り組みが行われている一方で，いまだに多くの争いが起こっているのも事実である。その争いの理由のひとつが人種に関する問題や差別である。特にアメリカにおける黒人差別の問題は根深く，長きにわたって争いを生み続けている。人間の行動パターンを決定づける要因のひとつにステレオタイプがある。対象への誤った認識はネガティブなステレオタイプを生む可能性があり，それが身体で表現される態度として現れると，差別となり危険をはらむ。ステレオタイプを含む意識には，意図して意識的に行う潜在的な意識と自動的かつ直感的な潜在的な意識の２種類がある。潜在的な意識を測るために近年使用されているのが，潜在連合テスト（IAT）と，2001年にNosekとBanaji（2001）が開発したGo/No-go課題（GNAT）である。人の持つ人種に関する潜在的意識を測定するための指標として欧米を中心に用いられているが，日本人を対象とした研究はあまり行われていないので，本研究では，IATとGNATを使用して潜在的意識の調査を行った。

黒人 - 白人IATでは，先行研究と同様に日本人も白人と比べて黒人を潜在的に否定的な態度を持っていることが示唆された。黒人 - アジア人IATでは，アジア人に肯定的な潜在的態度を持っている一方で，白人 - アジア人IATでは，白人の方に肯定的な態度が表れた。性別による比較では，白人 - アジア人IATにおいて有意差が見られた。また，年代による比較においては，黒人 - 白人IATにおいて有意差が見られた。20代と40代とで比較した場合，40代の方が黒人に対する潜在的態度が否定的であることが明らかになった。「学歴」および「顕在的な差別的統制動機の態度」では有意差は見られず，また「黒人との接触経験」による潜在的態度の差異は見られなかった。各人種を対象としたGNATのd′スコアを比較してみると，白人・アジア人・黒人の順に潜在的に肯定的な態度を持ち，わずかだが黒人に対しては否定的な態度を持つ傾向があることが示唆された。黒人との接触経験による潜在的態度の検証では，黒人d′得点で有意差が見られ，直接黒人と関わったことがある者の黒人d′得点は，それ以外の者のGNAT得点に比べて有意に高いことが明らかになった。IATとGNATの検証結果にて共通する点では，どちらにおいても黒人に対して否定的な潜在的意識を持つという結果で一致した。また，女性が白人に対して男性よりも高い肯定的な潜在意識を持つことも共通して明らかになった。